

どうしようもなく 上富が好き

かみじ



上富良野町都市計画 マスタープランができました



これをもとに、町民と行政が共に創るまちづくりを進めていきましょう!!

都市計画マスタープランとは

都市計画法第18条の2に位置づけられた「市町村の都市計画に関する基本的な方針」のことです。

簡単に言えば、広い意味でのまちづくり（町の総合計画がその方針を示しています）のうち、特にハード（例えば道路、公園、下水道とか施設など物や場所にかかわること）な事柄に関する部分を担うのが都市計画マスタープラン（以下『都市マス』）です。

この都市マスにもとづいて、具体的な都市計画の規制や事業を行っていきます。

町民参加によって都市計画マスタープランを作成

平成10年6月から約2年間かけて、町民によるまちづくり委員会、中心市街地ニギワイ隊、地域づくりモリアゲ隊及び市内の策定委員会、作業部会による延べ30回以上の話し合いにもとづいて都市マス（案）を作成しました。最終的に3回の都市計画審議会の議を経て平成12年3月末に決定いたしました。

ここで改めて、都市マスの策定をもって終わりではなく「始まり」であることを再確認したいと思います。この上富良野町の目指すべき都市計画の基本的方針に即して、今後町民と行政との共創のまちづくりを進めていきましょう。

まちづくりの目標と方向 自然賛歌編

1 雄大な十勝岳への眺望を大切にすまちづくり

十勝岳の眺望を楽しむ絶好のポイント（地点）について、その場所の状況に合わせてちょっとした広場にするとか、十勝岳に花を添えるじゃないけれど、沿道に花を植えるなどの工夫をします。

八景五大名所については、基本的に周辺環境（農地、森林等）の保全と沿道景観の形成を図っていきます。

市街地においては、とくに図に示す5箇所について重点的に規制や整備を図っていきます。

十勝岳をながめる絶好のポイントを教えてやるかい。千望峠のあそこだよ。十勝岳が手でつかめるような錯覚に落ちいる時があるんだ。たまに仕事をさぼってのんびり眺めるんだ。これが最高！内緒だよ。

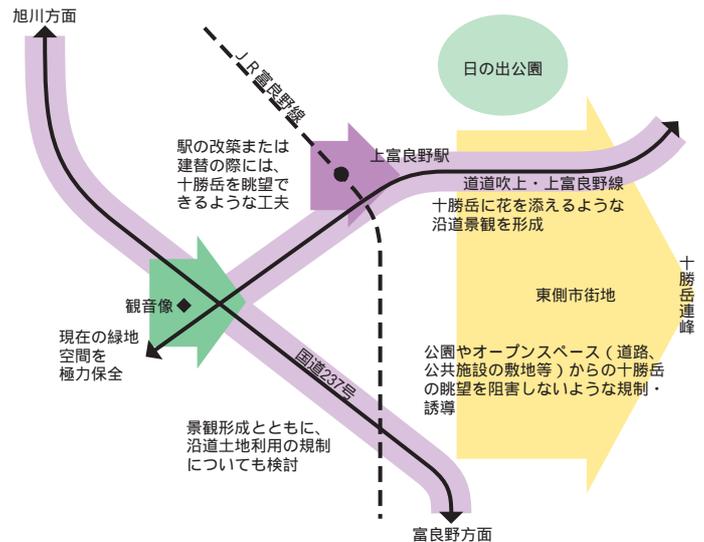


図 市街地における十勝岳満喫重点ポイント&ゾーン

2 水と緑の大地を大切にすまちづくり

里山の山林、樹林地、丘陵地などの緑を極力保全し、水循環の確保を図ります。

また、生態系の保全・育成を図るため、河川の多自然型整備、ビオトープ（生物生息空間）の整備を進めます。

市街地においては、図に示す4箇所について重点的に保全や整備を図っていきます。

昔は自然のなかで遊んでいた。護岸工事が進み小川などはなくなりました。今や自然の中で遊ぶのは贅沢になりました。

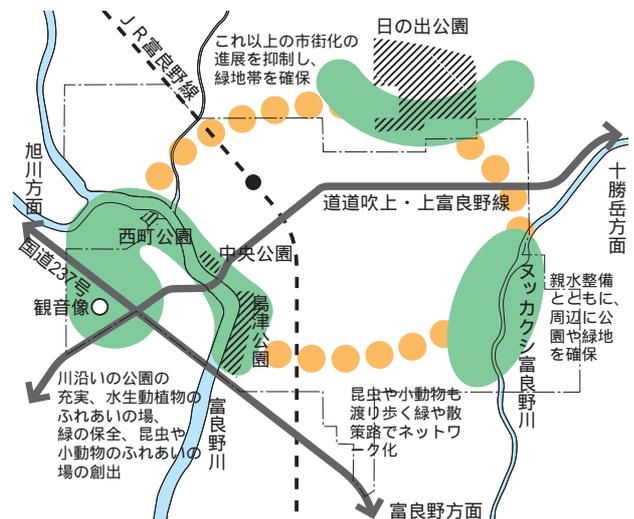


図 市街地における緑と生態系の重点保全・育成ポイント&ネットワーク

3 災害（自然惨禍）に強いまちづくり

防災対策の中心は水害と噴火泥流対策、なかでも人命救命中心に行っていくべきものと考えます。

避難路や災害後の物資補給路の確保、円滑な復旧作業を行うため、とくに第1危険区域内の狭小道路の解消を進めていきます。

防災に対する意識は強いまちだと思ふ。泥流からの復興心は誇れる。大切にしたい。

① 高齢者も生き生きする
“みんな家から出たくなる”まちづくり

「いつでもどこへでも一人でできる」まちづくりを進めるために、次のような散歩道づくりを目指します(図)。

「思わずうれしくなる散歩道」：自然に触れ、四季の移りかわりや花の香りを楽しみ、子供たちの笑い声が聞こえてくる、そんな散歩道をつくりたい。

「安全、安心な散歩道」：安全とともに安心して出かけられるように、乳母車から車イスまでスムーズに移動できるとともに、足にやさしい、冬期間すべりづらい舗装にしていきたい。また、随所に休憩場所やトイレなどを設置したい。

お年寄りにやさしくするという事は、至れりつくせりで自宅から一歩も出なくても生活できるようにすることではないわ。それだとポケが進んでしまう。さあ、みんなで外に出かけましょう。

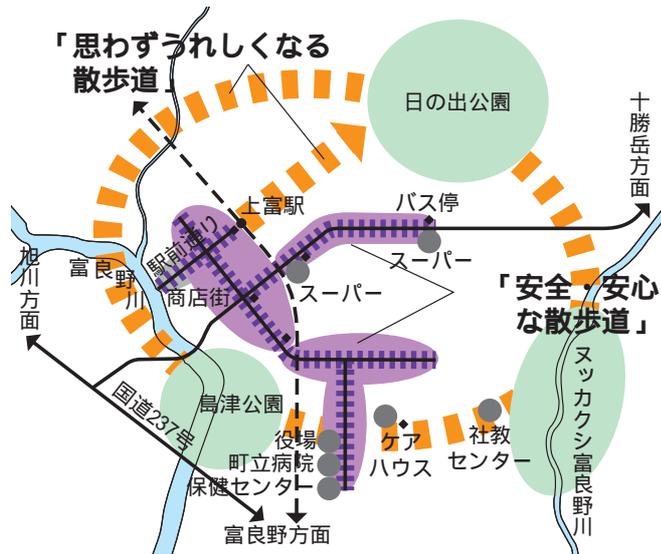


図 “みんな家から出たくなる”散歩道づくりの考え方

② 子供たちが伸び伸びと
“様々な体験ができる”まちづくり

市街地内外の既存の4つの自然拠点(樹林地、水辺等)を生態系緑地として極力保全し、それらと公園が安全で快適な道で結ばれることにより、子供たちがあっちこち多様な緑の遊び場をはしごできるようにしていきます(図)。

生命感にあふれる身近な自然を子供の生活圏のなかに残していくことは、将来世代に対する我々大人の大切な責任のひとつだと思う。

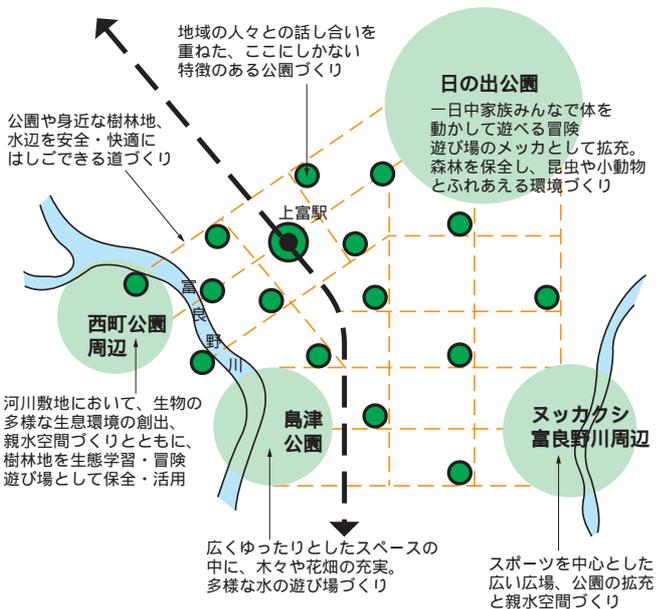


図 4つの自然拠点と子供おもしろ体験はしごづくりの考え方

③ 暮らしが絵になるまちづくり

各家が庭づくりを楽しむとともに、各家の花と緑を連続していくことができないものだろうか。例えば、地域ごとにまち並みの作法を共有できたなら、道歩く人にも「気持ちいいな」と感じてもらえることができます。さらには、観光客など上富を訪れた人々が「上富って素敵なまちね」と感じてくれるでしょう。

ここで一句。
『ガーデニング みんなでやれば 街並み整備』

④ 田園丘陵の担い手たちと手を取り合うまちづくり

第2の自然ともいえるべき農業環境も含めて積極的に自然とかわり、農業をもっと暮らしと密接にかかわるようにしていくことが大切だと考えます。

そのために、地元のもの地元で消費できるシステムをつくる。町内外の人たちが農業にかかわる仕組みをつくるなど、農業(従事者)との新しい直接的な関係をつくっていきたいと思います。

景観のために田園丘陵があるわけじゃない。農業者の生活そのものだ。生活できなくなりやめられかねえよ。

⑤ 上富を訪れる人々をもてなすまちづくり

以上のようなまちづくりを地道に、かつ主体的に進めていくことが、すなわち上富のおもてなしにつながると考えますが、それにしても、この地に住んでいない方々をもてなすには、楽しむ場所がどこにあってどう行けばいいのか、つまりサイン(案内)とその道中の快適さが充実していなければなりません。さらに、おもてなしセンター(情報センター)の設置についても検討していきます(図)。

“上富のおもてなし”って何を知っているかい？
行ってみないとわからないよ。もてなされたいと思っちゃいけないよ。彼らは自分たちが楽しんでるだけなんだ。でも、それってウソくさくない“もてなし”なんだよ。

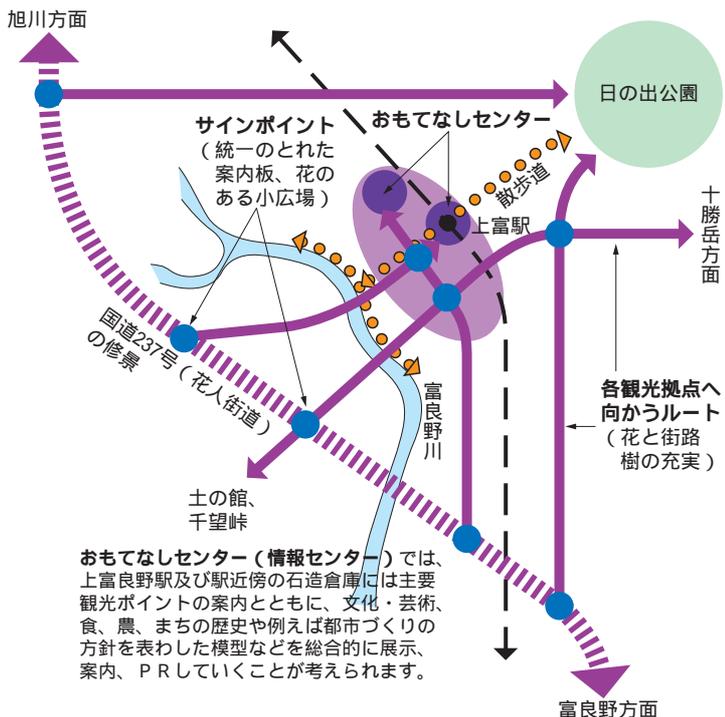


図 主なおもてなしセンター、サイン&修景場所の考え方

市街地整備方針 都市構造の形成方針

上富のまちには中心がない。ラベンダー発祥の地なのにそんな感じがしない。公共施設の場所がバラバラで利用しづらい。日の出公園のような観光名所があっても行きづらい。そもそも上富ならではのまちづくりと言えるところはどこ？ などなど。

このような問題の解決に向けて重要なことは、**まちの土地の使い方にポリシー（一貫した考え・哲学・信念）を持つ！**ということだと考えます。

そこで、次のような**将来の望ましい都市構造**を目指していきます。ここで言う都市構造とは、**メリハリのある魅力的な都市空間を創っていくためのポリシー**のことです。

おもてなし軸

日の出公園と市街地西側の丘陵地帯の2つの拠点丘陵地を結ぶゾーンを『**上富の魅力アピール強化軸**』として明確に位置づけます。

ラベンダー発祥のまちであり、また華のあるまちづくりを進めていくことが、町民はもとより訪れる人にも実感できるような景観形成を、今後この軸上で重点的に推進していきます。

軸の中央部に位置し、2つの丘陵地に挟まれた低地に位置する**駅は上富の顔**として重要なポイントとなります。駅を降り立った瞬間から上富の世界に入っていき、景観を形成していきます。

そのために、駅直近の花と香りの広場、駅から見上げるとピクチャーフレームのように2つの丘陵地が見渡せる景観、駅から2つの丘陵地に至る美しい街路、さらにはその道すがら出会う商店街の活気や花の小径（こみち）づくりなど華のある上富的生活ぶり、そんな都市環境の形成を目指します。

コミュニティ軸

島津公園・富良野川河川緑地と富原運動公園の2つの拠点緑地を結ぶゾーンを『**上富の安心生活を支える軸**』として明確に位置づけます。

今後はこの軸上に集中的に行政、福祉、医療、町民交流、健康・スポーツなどの町民生活を支える機能の充実、集積を図っていきます。

また、これらの機能集積を長期的には**グリーンコリドー（緑の回廊）**で連結し、十勝岳連峰をまちなかからゆったりと眺望できる都市環境の形成を目指します。

同時にこのグリーンコリドーは将来の町民生活支援施設のりざーブ用地（先行的確保用地）としての役割も果たします。

広大なラベンダー園としての観光拠点に加えて、今後町民や周辺市町村の方々が年間を通して楽しめる、家族みんなで終日過ごせる冒険遊び場のメッカとなるよう健康（アスレチック、スキー）、教育文化（自然観察・学習・体験）、レク（オートキャンプ）機能などの充実を進めていきます。

上富の生活文化交流のヘソとして様々な人々との出会い・感動があり、ぶらぶら歩きが楽しめる環境の創出を目指します。駅近傍には新しく観光・文化・交流機能（例えば、観光情報館、文化会館、図書館などの複合的施設）の導入を図ります。

樹林および緑地を極力保全するとともに子供の生態学習・冒険遊び場として整備を進めていきます。

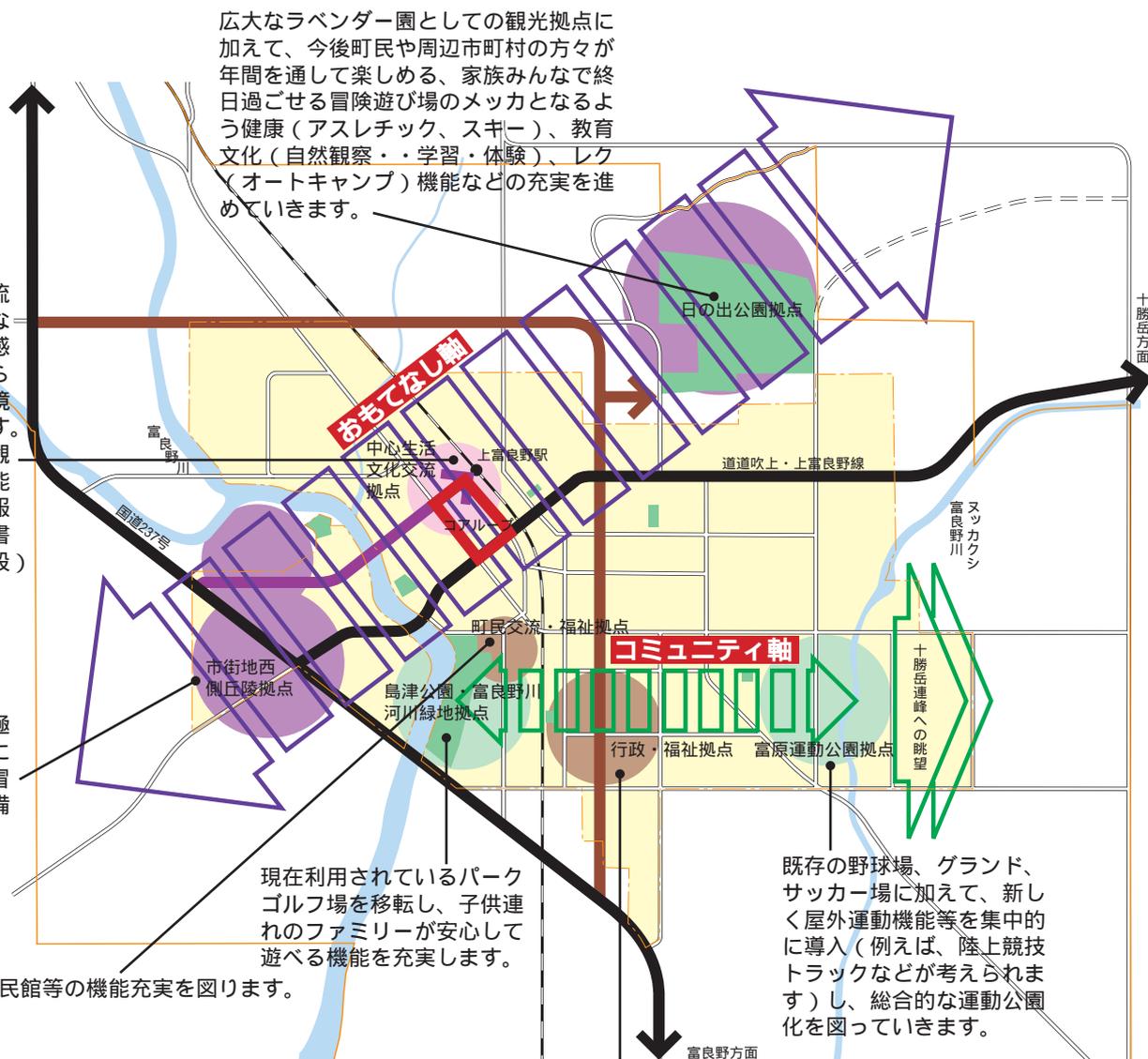
現在利用されているパークゴルフ場を移転し、子供連れのファミリーが安心して遊べる機能を充実します。

既存の公民館等の機能充実を図ります。

既存の野球場、グラウンド、サッカー場に加えて、新しく屋外運動機能等を集中的に導入（例えば、陸上競技トラックなどが考えられます）し、総合的な運動公園化を図っていきます。

既存の役場、町立病院などとともに、総合的な保健福祉機能等を集中的に導入していきます。

図 都市構造の形成方針



町内外の人々にぎわう

歩いて楽しい中心市街地をつくろう！

例えば、こんなまちの中心をみんなで創っていったらどうでしょうか。

まちの中心には、町民手づくりの設計でつくられた町のシンボルとなる丸太小屋風の上富良野駅舎がある。観光情報はもちろん、後藤画伯や写真家そして町民のミニギャラリーがあり、屋上に上がると十勝岳連峰が一望できる。

駅舎の前の花と香りの広場では商店街の協力を得てよくフリーマーケットや野外コンサート、演奏会が行われている。盆踊りも行われるようになった。

駅前のゆったりとした図書コーナーで思わず時間を忘れて本を読みふけてしまった。中庭を抜けていくと、そこは昔の上富のおもかげが残る石造り倉庫だ。ここでは、演劇や演奏会が行われたり、焼肉豚さがりに合うキムチ作り、あるいはラベンダー織りなど手作り工房としても活用されている。いつも何かやっているところだ。

商店街でブラブラしていると店主のこだわりが感じられる商品が置かれていて、つい衝動買いをしてしまう。旭川のデパートには売ってやしない代物だ。今では上富では有機栽培が常識となっており、地産地消のサイクルができあがりつつある。商店街では花が咲き誇り、商売よりも花の世話を命をかけているかのようだ。ちょっと横道にそれると、「オッ、こんなところに美しい花の小径（こみち）が！」といった路地がある。見えないところの美学が上富的である。

上富名物豚さがりを食べさせる店が10軒もあって全て微妙に味が違う。言ってみれば豚さがり横丁ができてしまった。

中心部は歩行者、サイクリングロードの起終点になっているので、いつもにぎわっている。まちなかに住む人も多くなった。

お年寄りが一人で買い物に歩いて（せめてバスに乗って）いけて、ちょっとした休憩所があり、お茶の一杯でも飲める、そんなぶらっと散歩に来て時間をつぶせる中心市街地になってきた。

自分の家でお客さんをもてなす気持ちを、上富のまちづくりに拡げて考えていくべきではないかしら。その意味でも、上富の中心部は家の玄関や居間のように大切に大切に思うわ。

おもてなしの心を表す7箇条

- 1 町外の人をもてなすとともに、町内の人たちも互いにもてなし合い、楽しい時間を消費できるようにすべし
- 2 様々な出会い・交流・コミュニケーションが生まれるチャンネルとチャンスをいっぱい作るべし
- 3 五感に訴える印象的かつ上富ならではの演出に心がけるべし
- 4 上富のまちの記憶、歴史と文化を大切にすべし
- 5 地元を味わえるようにまちの人が自慢できる何かを用意すべし
- 6 ゆっくり、のんびりした田舎時間が流れるようにすべし
- 7 知る人ぞ知る、さりげない、さがりの魅力を目指すべし

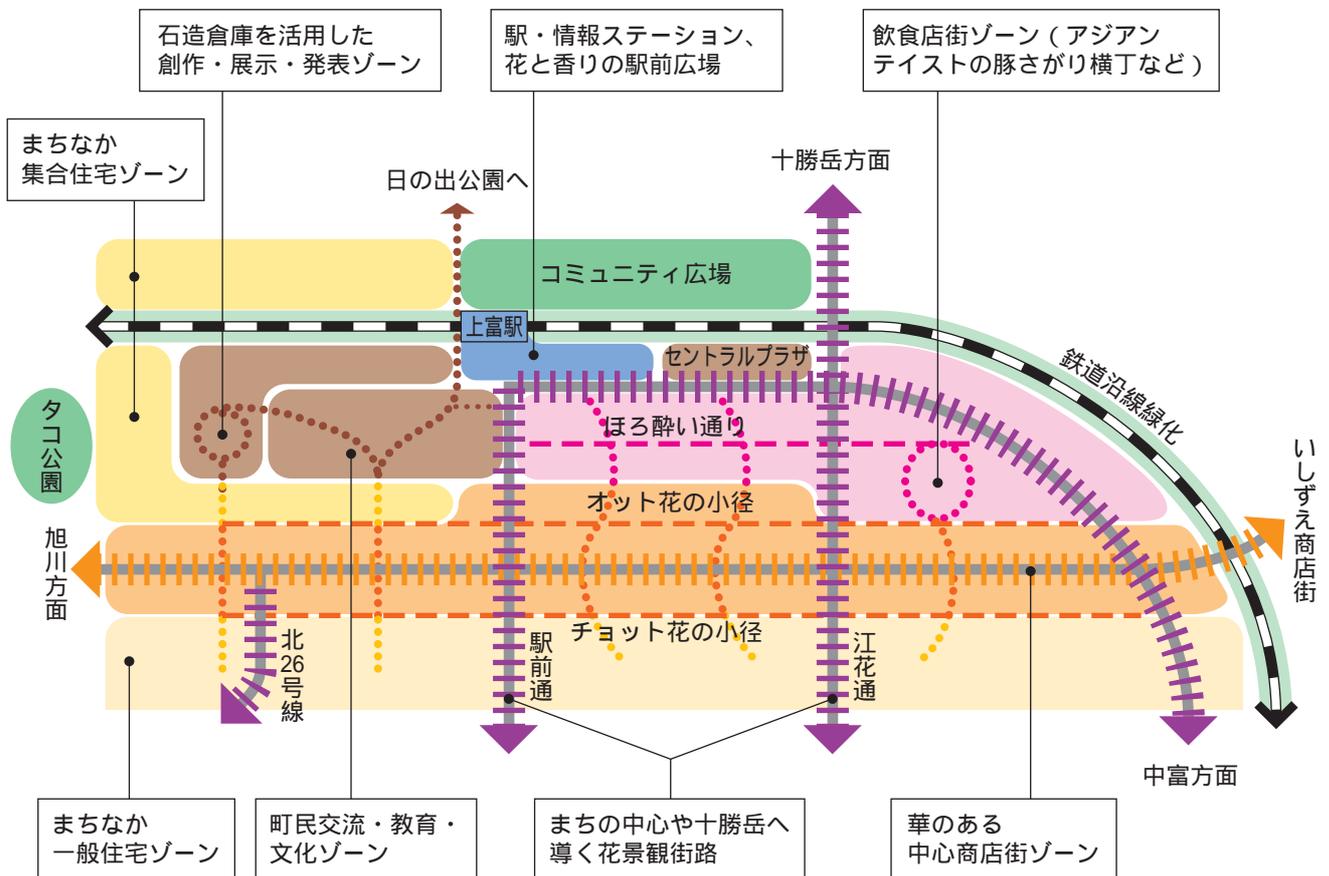


図 中心市街地のゾーニング・イメージ

1 華のあるまちづくりを目指して

ラベンダーの歴史は、『農業』から『観光』目的に変わってきました。はたしてラベンダーのまち上富良野は、今後どのようなまちづくりの展望をもつべきなのでしょうか。

大事なことは、ラベンダーを受け継ぐというよりは、上富の先人たちの先見の明やチャレンジ精神を受け継いでいこうとする意志を持つことだと思います。

今後は 個人の庭や庭先の道路沿いをラベンダーなどの花で『自ら楽しむ』、その結果として町内外を問わず道歩く人々をなごませ、花を通じた会話が生まれ、ひいてはまち全体の景観形成や地域コミュニティの醸成につながっていく、さらにこのことが観光産業等の新しい展開に波及していく、そんな、言わば“華のあるまちづくり”を目指していきましょう。華という言葉に、まちづくりの精華（真価、真髄）として、花を通して新しい循環のまちづくりに昇華させていく思いを込めたいと思います。

2 花づくり活動の推進

華のあるまちづくりへの展開に向けた、起爆剤としての“花づくり”活動を進めていくためには、“まずはプランター1個から始める”気軽な“自分ごと”としての住民活動を基本に、一方で自主性を損なわない裏方としての行政支援が必要になると考えます。

まずは、きっかけづくりとしてすぐに次の3つの行政支援を始めます。

-  **情報提供事業** - 花に興味のある人はたくさんいても、何からどう始めたらよいかわからないといった人が多くいます。ズバリ！実践的な情報提供をしていきます。
-  **花人づくり事業** - 町民の中に花づくりの達人たちが続々輩出してくると、日常的に気楽にアドバイスを受けられる、応援してくれる環境が整います。そんな花人づくりを目指していきます。
-  **モデル事業** - まずは目に見える実践の場が必要です。人々がよく集まる場所を中心にモデル的に花づくりをしていきます。

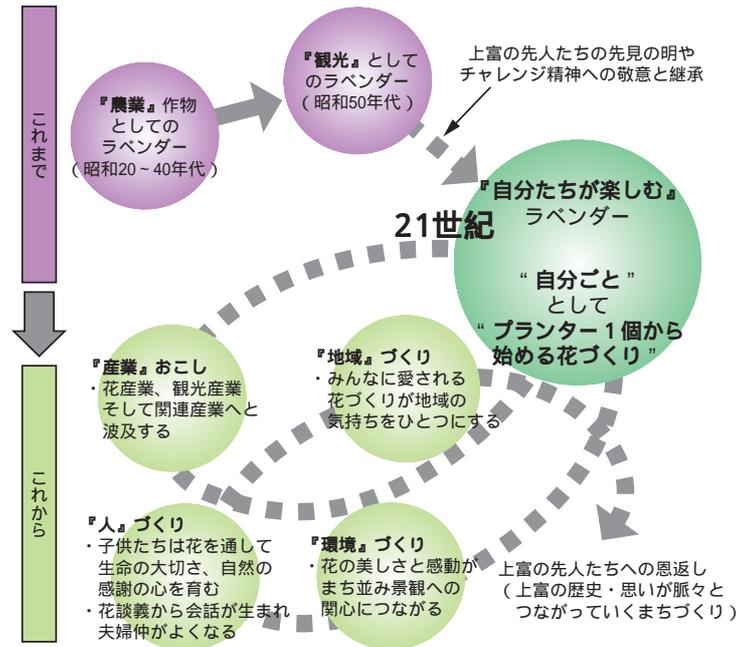


図 華のあるまちづくりへの展開イメージ

まちづくりの推進に向けて

1 町民と行政が共に創るまちづくり

これまでの住民と行政との関係において、反省すべき点として大きくは3つあると考えます。

- 住民が知らないうちに事業が進められている事業を評価する仕組みがない
- 住民のもつ多様な知識・知恵・能力を活用していない

住民参加 参画 主体のまちづくりへ！
「地域づくりの主役は住民、応援するのが行政」という考え方が大切。

今後は、住民と行政の合意形成のしくみづくりに向けて、行政の説明責任（アカウントビリティ）と情報公開の充実、計画策定から実施、管理運営、評価に至る各段階での住民参加・参画の充実をはかるとともに、住民主体のまちづくり活動の支援を推進していきます。

都市マスができれば終わりではなく、始まりである。都市マスを絵に描いた餅にしてはならない。

一言で言えば、“住民と行政との共創によるまちづくり”を進めていきます。

2 まちづくりを進める体制の充実

住民と行政が地域のまちづくりやあるテーマによるまちづくり（行政からの提案のみならず、地元の発意・要望・提案も含めて）を協議したり、行政が住民にまちづくりの計画や事業を説明する場として、地域ごと、テーマごとの住民による協議会を設置していくことを検討します。

まちづくりは“ワクワク&リーズナブル”でいきたい。ワクワクする活動とリーズナブル（合理的）な計画が両輪になってまちづくりは進んでいく。

また、行政内部において総合的で整合のとれたまちづくりを推進するために、企画部門、都市計画部門や事業部門のみならず、教育、福祉等広く関連すると考えられる部門まで含めた体制（常に情報を共有し合い、協議する場）を確立していきます。

3 華のあるまちづくり作戦！

今回の都市マスで描かれたまちづくりの夢や目標と市街地整備の方針については、その実施に向けてさらに具体的な検討が必要になります。事業化に向けてはいくつものステップとハードルが待ち構えています。

その際大事なことは、十分に議論をつくして、住民と行政の共創によるまちづくり計画を詰めていくと同時に、“まずはできるところから始めてみよう！”というアクション（行動）を起こしていくことです。

次ページの図に示すように、今から計画と実行の両輪による「華のあるまちづくり作戦！」を開始していきます。

最も重点的に整備を進めていく必要性が高いものは、駅周辺（中心市街地）の顔づくり（作戦その1）です。複合的な都市整備が必要であるとともに、施設の使い方、使われ方についてもじっくりと議論を重ねていく必要があります。“まずはチャレンジショップ実験！”を既存の倉庫や空店舗などを活用して始めてみることにしましょう。

もうひとつ、まちづくりの進め方として重要な視点は、花づくり活動の推進による潤滑油的動き（作戦その2）です。上述の駅周辺の顔づくりにおいては、駅前広場の社会実験的仮設整備として、“まずは駅広に花壇をつくってみよう！”作戦を実施します。

さらに、駅から日の出公園までの散歩道沿いにお住まいの方にご協力いただいて、“まずは地先住宅のモデルガーデン実践！”を行っていきます。

このような多様な活動が次々と生まれ、相互に刺激し合い、また連鎖的、循環的に展開していくことが、すなわち上富の目指す“華のあるまちづくり”と言えます。

図 上富良野都市計画マスタープランの実現に向けて【華のあるまちづくり作戦！】

(注) “ ラベンダー文字 ” : まずは眼にみえる活動をやってみる

項目		都市マスによる施策メニュー例	ステップ	さらなる展開
駅周辺(中心市街地)の顔づくり	駅舎	・住民手づくりの丸太小屋風駅舎 ・観光案内、ギャラリー、屋上展望台	住民・商業者・権利者・行政による駅周辺の顔づくり構想をつくる！ (事業化に向けた基本線の合意形成を図る)	さらなる展開
	駅広	・花と香りのおもてなし広場 ・バス停(観光、町営)、レンタサイクル		
	駅前通り	・中心商店街(旧国道沿)へ誘う通りに! (喫茶店、食べ物屋)		
	駅直近(石造倉庫)	・石造倉庫の活用 ・公共施設(総合的な観光・文化・交流施設)の導入		
街路整備		・駅から日の出公園までの花散歩道 ・日の出公園ダイレクトアクセス道路 ・ジョギング・サイクリングロード ・バリアフリー整備	散歩道のルートとデザイン検討 “まずは地先住宅のモデルガーデン実践!”	
商店街活性化		・花の商店街づくり ・花の小径(こみち)づくり ・豚さがり横丁、こだわり店(地産地消の店)	“まずは(駅前通り)商店のモデル花づくり!”	
景観形成・花づくり活動	花づくり活動の推進	・ラベンダー発祥の地らしい取組み	作戦その2 花のまちづくり実践講習会、花のまちづくりアドバイザーの育成 “モデルガーデン”への助成(駅広、社教センター、商店街、住宅地、役場等)	
	景観形成	・十勝岳の眺望を大切にすまちづくり ・深山峠の景観規制	作戦その3 住民・関係権利者・行政により、深山峠の景観について考えよう!	
公園・緑地等の整備		・日の出公園周辺の保全 ・将来の公園・緑地用地の先行的確保 ・公園整備に住民の声を!	作戦その4 地権者交渉(保全又は緑系の活用) 住民・権利者・行政により、日の出公園(周辺)、市街地西側丘陵地一帯の保全・活用について考えよう!	
身近な生活環境施設の整備		・集会所の建替に住民の声を! ・総合保健福祉センターに住民の声を!	作戦その5 関係地域住民により、住民参画モデル設計をしてみよう!(東明児童会館等)	
まちづくり・人づくりの啓発・普及			上記作戦の報告会	

詳しい内容については、右記までお問い合わせください。

上富良野役場 商工観光まちづくり課
TEL (0167) 45 - 6983 FAX (0167) 45 - 5362